最上小国川流域の地域づくりワークショップニュース No.1

第１回地域づくりワークショップを開催

地域ブランド化による地域づくり計画をつくるため、流域全体のイメージを話し合いました。

グループ
1　たのしむ・くつろぐ（観光）
2　食・緑・水をつくる（農林水産）
3　まちをにぎわす（商工）
4　自然を学ぶ（環境教育）
5　ひとを守る（防災）

11 月 27 日（木）に最上町中央公民館で、ちらし等でお知らせした第１回目のワークショップが開催されました。今回のワークショップは、最上小国川流域の地域づくり計画（最上小国川清流未来振興計画（案））をつくるのための取り組みです。参加者は、地域の団体の方や一般公募による参加者の方等、43 名の方に参加していただき、５つのグループに分かれて、流域全体の地域像を話し合いました。

最上小国川流域の地域づくりが始動

ワークショップに先立ち、27 日（木）午前中に最上中央公民館で最上小国川清流未来振興機構（仮称）設立準備会を立ち上げました。

機構設立準備会は、最上町、舟形町、小国川漁業協同組合と山形県の４団体で構成し、機構設立の準備を行うのが目的です。

ワークショップの主催は、機構設立準備会です。

最上小国川

1 先進事例の紹介

（１）四万十川の地域ブランド化

はじめに、「日本最後の清流」と呼ばれている四国の四万十川の流域のブランド化について、株式会社計画技術研究所の佐谷和江さんからお話を聞きました。ブランド化における県と市町の取り組みと「株式会社四万十川ドラマ」の取り組みを紹介していただきました。四万十川ドラマでは、３つのコンセプトのもと、取り組んでいるとの紹介がありました。

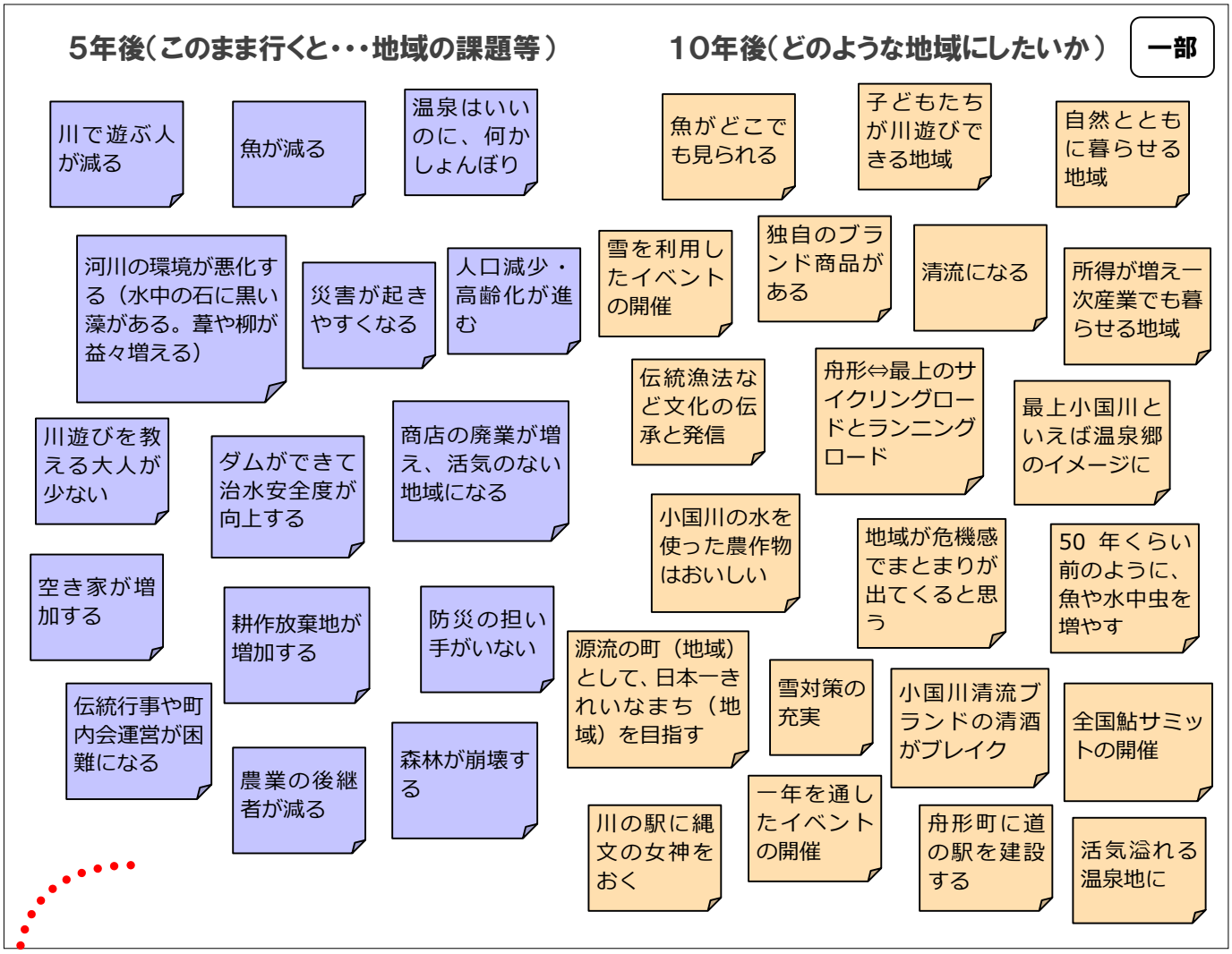
コンセプト
1　ローカル（足元の豊かさ・生き方を考える。）
2　ローテク（地元の１～1.5 次産業の技術や知恵）
3　ローインパクト（風景を活かしながら活用する仕組みづくり）

（２）河川を利用した環境教育　－阿武隈川塾－

次に、福島県の阿武隈川で「阿武隈川塾」を立ち上げ、子どもたちと魚を通して河川環境を考える活動等を行ってきた堀江清志塾長（阿武隈川漁業協同組合事務局長）からお話を聞きました。塾の運営は、多くのボランティアに支えられ、様々な分野の人が参加することで地域との連携が出来上がってきたことや、塾の活動が知らず知らずのうちに、まちの活性化につながっていることなど、実体験に基づく地域づくりのお話をしていただきました。

2 グループワーク　－地域の未来図を描くために　現状を確認し、未来を思い描く－

グループワークでは、最上小国川流域の地域像を話し合いました。現状のまま歩み続けると５年後にどうなっているかなど、地域の課題等を出し合いました。また、10 年後、この地域がどのようになることを望むか、どのような地域になればワクワクするかを考えて意見を出し合いました。これらを踏まえ、各グループの地域像をまとめ、全体で地域像をつくりました。出された意見の一部を紹介します。



（１）約200の意見から地域像のキーワードを抽出

「キーワード」

日本のふるさと・交流人口の拡大・文化と自然を発信・流水型・ふるさとの味・最上小国川・縄文の女神・笑顔あふれる・対話・豊かな自然・幸せを感じる・垣根を越える・若者が定着・鮎・清らか・清流最上小国川

（２）流域全体の地域像づくり

グループワークで出された意見やキーワードをもとに、流域全体の地域像を話し合いました。次回、引き続き話し合って、地域像を表すフレーズ（案）をまとめることになりました。

《次回（第２回）ワークショップのお知らせ》

次回は 12 月 18 日（木）午後１時 30 分から舟形町中央公民館で行います。テーマは、「地域像を実現するための取り組みを考えよう！（予定）」です。

発行
平成 26 年 12 月 10 日

最上小国川清流未来振興機構（仮称）設立準備会
（事務局　山形県県土整備部河川課内　電話 023-630-2615）